

新年のごあいさつ

～人を支える人を育てること～



社会福祉法人足羽福祉会
理事長 高村 昌裕



新年明けまして

おめでとうございます。

皆様にとって、新しい時代となった令和元年はどのような年だったでしょうか？

大地震や酷暑、豪雨、台風といった自然がもたらす脅威の前に、全国各地で多くの方々の生活が脅かされ、犠牲者も出てしまいました。そのたびに助け合いの活動が起きることに、私は「人の支え合いの力」の強さを感じました。

またラグビーワールドカップでは日本代表が初のベスト8進出を実現しましたが、快進撃の背景に、いろんな国の人たちを目標に向かって団結させていくために、ヘッドコーチやスタッフが取り組んできたプロセスを知り、人を育てることの大切さについても考える機会となりました。

近年さまざまな技術革新

が進み、コミュニケーション

や仕事の仕方も大きく変化してきていますが「人がどう考え行動するか」が最も重要であることに変わりはないようです。私たち福祉に取組み者にとっては「人を支える人をどう育てるか」が、誰もが安心して過ごせる福祉社会の実現に欠かせない取り組みであるということですので。

去る12月1日に、当法人は第11回サービスマス実践報告会を開催しました。私たちが日頃、保育、発達支援、生活支援、就労支援、介護といったさまざまな現場で取組んだことを発表し、多くの方々を知っていただく機会として、他法人の発表も加えた計12の事例報告を行いました。

この取り組みは足羽福祉会職員の人材育成にとっても二つの意味を持っています。

一つ目はうまくできたことだけを発表するのではなく、失敗や悩みも含めたプロセスを明らかにしていることです。

職員が利用される本人の思いや行動を十分に理解できずに壁にぶつかったり、チームで話し合いながら何度もトライしたりしたプロセスを丁寧に振り返ることを大切にしています。福祉の専門家としての成長は、知識の詰め込みでなく、現場での試行錯誤の積み重ねにあるからです。

二つ目は異なる分野の実践発表も互いに聞き合うことで、人の人生を支えることとの奥深さに触れることです。認知症が少しずつ進行する中でも在宅で生活し続けたい本人の気持ちに寄り添い、関係者みんなで協力して支えた実践報告では「老いを受け止めるとは、どういうことか」という人生の大命題を、

参加者全員が我がこととして考える機会にもなりました。

助言者の福井大学大学院の新井先生、小嵐先生、福井県医療福祉専門学校藤田先生からは、すべての発表に的確なアドバイスや多くの示唆をいただきました。改めて感謝申し上げます。

どんな時代になっても「人を支えるのは人」、それを仕事とすることに誇りと覚悟をもって、今年も役職員一同、力を合わせて取り組んでまいります。何卒皆様のご支援、ご協力のほどお願いいたします。